

海軍履歴表

小山 實（大正 12 年生まれ）

昭和 14・6・1	横須賀海兵団二入団
同日	海軍四等水兵ヲ命ス
9・1	海軍三等水兵ヲ命ス
同日	第 52 期普通科電信術練習生トシテ海軍通信学校ニ入校ヲ命ス(横須賀市久里 浜在)
12・1	舞鶴鎮守府所管ニ転籍
15・4・29	支那事变従軍記章(賜金 30 円)授与
8・20	第 52 期普通科電信術練習生教程卒業
同日	舞鶴通信隊付ヲ命ス(横須賀 舞鶴間隊伍旅行)
11・1	海軍二等水兵ヲ命ス
16・1・18	第 2 通信隊付ヲ命ス
同日	第 2 通信隊八苜崎丸ニ設置(海上勤務)
3・24	佐世保発中支方面(戦地勤務)
4・1	鹿児島帰着
4・10	第 2 艦隊ヨリ除カレ第 3 艦隊ニ編入セラル
6・10	南支方面へ向ケ佐世保発
6・13	南支方面着(事变地勤務)
7・6	南支方面発
7・7	馬公帰着
7・11	南支方面へ向ケ高雄発
7・14	南支方面着(事变地勤務)
自 7・10 至 8・6	佛印南部進駐作戦ニ従事
8・25	南支方面発
8・29	大阪帰着
10・1	海軍一等水兵ヲ命ス
11・24	通信事務援助(機密第二根拠地隊命令特四号)ノタメ掃 17 二派遣ヲ命ス
12・7	比島方面へ向ケ馬公発開戦の暗号文は「ニイタカヤマノボレ」であった
17・3・17	派遣中ノ処帰隊(3月 11 日同艇退艇、敵島ニ便乗、便乗中ノ処本日帰隊)
3・10	第 22 特別根拠地隊司令部付ヲ命ス(インドネシア・ボルネオ・バリツパ パン在) (第二通信隊残務整理中ノ処 3 月 23 日退隊)

6・1 普通善行章一線付与（計一線）
 11・1 昭和17年勅令第六一一号ニ依リ海軍水兵長トナル
 自 17・4・1 戦務（甲）
 至 18・5・15
 18・5・1 任海軍二等兵曹
 5・11 第71期高等科電信術練習生トシテ海軍通信学校ニ入校ヲ命ス（即日國洋丸
 便乗バリックパパン発、19日呉着、5月21日入校）
 10・27 利根乗組ヲ命ス
 同日 第71期高等科電信術（交信班）教程卒業
 11・6 呉ニ於イテ乗艦
 自 11・7 電探・機銃増設回航・呉
 至 12・12
 19・1・5 陸軍輸送トラック、カビエン回航
 自 2・19 「サ」第一号作戦（インド洋交通破壊）ニ従事
 至 3・15
 3・1 第2艦隊ニ編入セラル
 5・1 任海軍一等兵曹
 自 5・20 「あ」号作戦ニ従事（マリアナ沖海戦）
 至 6・22
 （6・15 米軍サイパン上陸）
 自 10・18 捷一号作戦ニ従事
 至 10・28
 「謎の反転」僚艦筑摩は行方不明となる
 （10・20 米軍レイテ島上陸）
 11・17 舞鶴帰着
 20・2・18 舞鶴発太平洋方面（戦務甲）
 2・20 呉着
 5・1 任海軍上等兵曹
 6・1 普通善行章一線付与（累計二線）
 7・24 江田島空襲
 7・28 利根八米軍艦載機ノ二度ノ空襲ニヨリ江田島湾内ニ於イテ沈座着底シタ
 8・6 江田島の向かいの能美島から広島方向にキノコ雲（原爆）を望見
 8・12 舞鶴海兵団ニ入団ヲ命ス
 9・1 現役免除 復員トナル

軍艦利根は20センチ主砲八門を前甲板かんぱんに集中装備し、水偵六機すいていを後甲板に搭載した、当時世界最新鋭の重巡じゅうじゆんとして昭和13年に就役しゅうえきしました。

常に機動部隊の先頭を進み、水偵による敵発見の一報を受信する前下部電信室の室所長をしていた。